

令和3年度（2021年度）北海道ふるさと・水と土指導員名簿

令和3年11月 現在

No.	局名	市町村名	氏名	職業等	主な活動	推薦者	任期	備考
1	空知	岩見沢市	小西 泰子	農業	地域活動全般	市長	令和6年3月31日	
2	空知	三笠市	赤坂 卓也	農業	地域活動全般	市長	令和6年3月31日	新規
3	空知	三笠市	田中 亮	団体職員	地域活動全般	市長	令和6年3月31日	新規
4	空知	栗山町	金丸 大輔	地方公務員	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
5	空知	栗山町	菅野 義樹	農業	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	新規
6	空知	雨竜町	外山 謙一	無職	農村景観保全・自然再生活動等	町長	令和4年3月31日	
7	空知	沼田町	池内 孝司	団体職員	環境整備指導等	町長	令和6年3月31日	新規
8	石狩	石狩市	阿岸 哲広	改良区職員	環境整備指導等	土地連	令和6年3月31日	
9	後志	蘭越町	松山 廣	農業	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
10	胆振	厚真町	尾谷 純司	改良区職員	環境整備指導等	土地連	令和6年3月31日	新規
11	胆振	洞爺湖町	青山 伸子	農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
12	日高	日高町	田中 義光	農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
13	日高	新冠町	佐藤 剛	酪農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
14	日高	浦河町	中川 貢	団体職員	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
15	日高	浦河町	以西 明美	自営業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
16	日高	浦河町	西 利明	改良区職員	環境整備指導等	土地連	令和6年3月31日	新規
17	渡島	知内町	佐藤 暁樹	住職	自然観察指導	町長	令和6年3月31日	
18	渡島	知内町	笠松 悦子	農業	農産物加工販売等	町長	令和6年3月31日	
19	渡島	七飯町	田中 いずみ	会社役員	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
20	渡島	八雲町	小林 石男	農業	地場産品加工直売	町長	令和6年3月31日	
21	檜山	江差町	小笠原 明彦	団体嘱託員	農村景観・農作業体験指導	土地連	令和4年3月31日	
22	檜山	上ノ国町	吉見 俊彦	無職	農村環境・景観保全活動等	土地連	令和5年3月31日	
23	檜山	厚沢部町	佐々木 俊司	会社役員	地域活動全般	土地連	令和6年3月31日	
24	檜山	せたな町	富樫 一仁	農業	地域活動全般	土地連	令和4年3月31日	
25	上川	幌加内町	中村 雅義	農業	地域活動全般	土地連	令和6年3月31日	
26	上川	鷹栖町	中江 正博	改良区職員	地域活動全般	土地連	令和4年3月31日	
27	上川	当麻町	小野寺 孝一	無職	地域活動全般	土地連	令和6年3月31日	
28	上川	上川町	佐藤 績	農業	地域活動全般	土地連	令和5年3月31日	
29	上川	上川町	辰巳 明美	農業	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
30	上川	中富良野町	久保 照美	花卉卸し販売	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
31	上川	南富良野町	岩永 かずえ	農業	農産物地産地消活動等	町長	令和5年3月31日	
32	上川	南富良野町	鷹嘴 充子	会社役員	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
33	留萌	小平町	長澤 政之	地方公務員	自然体験指導	町長	令和4年3月31日	
34	留萌	小平町	高野 幸子	農業	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
35	留萌	苫前町	高瀬 徹	改良区職員	環境整備活動等	町長	令和5年3月31日	
36	留萌	苫前町	福田 怜也	改良区職員	環境整備活動等	町長	令和5年3月31日	
37	宗谷	稚内市	菊池 工	会社員	地域活動全般	市長	令和5年3月31日	
38	宗谷	稚内市	加藤 八重子	農業	地域活動全般	市長	令和6年3月31日	新規
39	林-ツ	北見市	馬淵 陽子	農業	農産物直売等	市長	令和6年3月31日	
40	林-ツ	北見市	黒須 倫子	農業	地域活動全般	土地連	令和6年3月31日	
41	林-ツ	美幌町	午来 博	地方公務員	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
42	林-ツ	津別町	佐野 多希子	農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
43	林-ツ	清里町	柳谷 亜紀子	農業	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
44	林-ツ	湧別町	久保 美恵子	酪農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
45	林-ツ	興部町	仲元寺 恒平	団体職員	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
46	林-ツ	興部町	八木 実央	地方公務員	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
47	林-ツ	雄武町	石井 恭子	会社員	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
48	十勝	帯広市	伊藤 由紀子	酪農業	地域活動全般	市長	令和4年3月31日	
49	十勝	鹿追町	高橋 貴子	会社員	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
50	十勝	本別町	岡崎 慶太	会社役員	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
51	十勝	本別町	谷口 まどか	管理栄養士	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
52	釧路	厚岸町	高橋 美佐子	無職	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
53	釧路	鶴居村	服部 政人	団体職員	都市農村交流等	村長	令和4年3月31日	
54	釧路	鶴居村	水本 梨佳	酪農業	地域活動全般	村長	令和5年3月31日	
55	根室	別海町	水沼 和子	無職	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
56	根室	別海町	渡邊 広美	酪農業	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
57	根室	別海町	尾形 好枝	酪農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	

令和3年度（2021年度）北海道ふるさと・水と土指導員名簿

令和3年11月 現在

ブロック	委員（市町村）、◎会長、○副会長、△幹事、アンダーラインは女性			
道央16名	空知7名	小西 泰子 (岩見沢市)	後志1名	松山 廣 (蘭越町)
		赤坂 卓也 (三笠市)	日高5名	△田中 義光 (日高町)
田中 亮 (三笠市)	佐藤 剛 (新冠町)			
金丸 大輔 (栗山町)	中川 貢 (浦河町)			
菅野 義樹 (栗山町)	以西 明美 (浦河町)			
△外山 謙一 (雨竜町)	西 利明 (浦河町)			
胆振2名		池内 孝司 (沼田町)	石狩1名	◎阿岸 哲広 (石狩市)
		尾谷 純司 (厚真町)		
	渡島4名	青山 伸子 (洞爺湖町)		
道南8名		佐藤 暁樹 (知内町)	檜山4名	小笠原 明彦 (江差町)
		笠松 悦子 (知内町)		△吉見 俊彦 (上ノ国町)
田中 いずみ (七飯町)	佐々木 俊司 (厚沢部町)			
○小林 石男 (八雲町)	富樫 一仁 (せたな町)			
道北14名	上川8名	中村 雅義 (幌加内町)	留萌4名	長澤 政之 (小平町)
		中江 正博 (鷹栖町)		△高野 幸子 (小平町)
△小野寺 孝一 (当麻町)	高瀬 徹 (苫前町)			
佐藤 績 (上川町)	福田 怜也 (苫前町)			
		辰巳 明美 (上川町)	宗谷2名	菊池 工 (稚内市)
		久保 照美 (中富良野町)		加藤 八重子 (稚内市)
		○岩永 かずえ (南富良野町)		
		鷹嘴 充子 (南富良野町)		
道東19名	林-ツツ9名	△馬淵 陽子 (北見市)	十勝4名	伊藤 由紀子 (帯広市)
		黒須 倫子 (北見市)		△高橋 貴子 (鹿追町)
午来 博 (美幌町)	岡崎 慶太 (本別町)			
佐野 多希子 (津別町)	谷口 まどか (本別町)			
		柳谷 亜紀子 (清里町)	釧路3名	高橋 美佐子 (厚岸町)
		久保 美恵子 (湧別町)		○服部 政人 (鶴居村)
		仲元寺 恒平 (興部町)	根室3名	水本 梨佳 (鶴居村)
		八木 実央 (興部町)		水沼 和子 (別海町)
		石井 恭子 (雄武町)		渡邊 広美 (別海町)
				尾形 好枝 (別海町)

計57名

資料 2

令和3年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 事業スケジュール

R4. 3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
委員会					第1回 8月4日 (オンライン)							第2回 3月23日
委員による意見交換会							オホーツク広域 地区 (網走市) 10月20日		由仁地区 (栗山町) 12月6日 上ノ国地区 (上ノ国町) 12月15日			本別地区 (オンライン) 3月9日
指導員 関連事業				第1回 幹事会 (札幌) 7月15日 現地研修 (道北・留萌) ※中止			現地研修 (道南・渡島) ※中止	振興局・ ブロック別 会議 (道北・旭川) 11月15日	振興局・ ブロック別 会議 (道東・十勝) 12月9日 (オンライン 併用)	振興局・ ブロック別 会議 (道央・空知) 1月19日 (オンライン 併用)	地域づく り研修会 (札幌) 2月16日 (オンライン 併用) 指導員会 (札幌) 2月17日 ※中止	
その他				農水省ふる水 基金全国 担当者会議 ※中止			全国研修 (東京) ※中止					情報誌 里づくり 23・24号
メルマガ「里づくり通信」(毎月、随時)												



令和3年度（2021年度）研修事業

1 メルマガ「里づくり通信」の発行

- (1) 発行 毎月、随時
- (2) 内容 委員会、研修事業、指導員の活動状況等について

2 第1回幹事会

- (1) 日時 令和3年7月15日（木） 13：30～14：30
- (2) 場所 北海道第二水産ビル4階 4G会議室（オンライン併用）
- (3) 出席者 10名（うち幹事6名）
- (4) 内容 指導員委嘱状況の報告、現地研修及び振興局・ブロック別会議の開催可否と内容検討、地域づくり研修会の内容検討

3 現地研修 ※中止

道北（留萌管内）、道南（渡島管内）

4 オンラインファームツアー体験研修

- (1) 日程 令和3年11月10日（水）10：00～12：00
- (2) 方法 ZOOMを使用したオンライン研修会
- (3) 出席 55名（うち指導員20名）
- (4) 内容 （株）いただきますカンパニーが提供するオンラインファームツアーの体験及び取組についての講義

5 振興局・ブロック別会議

- (1) 道北ブロック
 - ア 日程 令和3年11月15日（月）
 - イ 場所 旭川市大雪クリスタルホール2階レセプション室
 - ウ 出席 20名（うち指導員13名）
 - エ 内容 長澤指導員活動報告（避難所運営シミュレーション「さすけなぶる」について）、留萌振興局管内の農業振興について
- (2) 道東ブロック
 - ア 日程 令和3年12月9日（木）
 - イ 場所 本別町体育館中ホール（オンライン併用）
 - ウ 出席 22名（うち指導員8名）
 - エ 内容 「ほんべつ☆うきうき未来らぼ」取組紹介、小笠原農場取組紹介、前田農産食品取組紹介、谷口指導員活動報告、馬淵指導員活動報告、服部指導員活動報告
- (3) 道央ブロック
 - ア 日程 令和4年1月19日（水）
 - イ 場所 空知総合振興局会議室（オンライン併用）
 - ウ 出席 16名（うち指導員7名）
 - エ 内容 指導員自己紹介、小西指導員活動報告
- (4) 道南ブロック ※中止

6 第2回幹事会 ※書面開催

- (1) 日程 令和4年2月
- (2) 内容 次期幹事の選任、令和4年度各研修の日程等の検討

7 地域づくり研修会

- (1) 日 程 令和4年2月16日(水) 14:00~16:40
- (2) 場 所 TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前5階 ホール5G (オンライン併用)
- (3) 出 席 50名 (うち指導員19名)
- (4) 内 容
 - 第1部講演 日本赤十字北海道看護大学教授 根本 昌宏氏
「北海道型の災害対策を考える～地域の安心感、安全性を高めるために～」
 - 第2部講演 気象予報士 住友 静恵氏
「北海道の気候変動と持続可能な地域づくり」

8 指導員会 ※中止

- (1) 日 程 令和4年2月17日(木) 9:00~12:00
- (2) 場 所 北海道第二水産ビル4階 4G会議室
- (3) 内 容 避難所運営ゲーム北海道版(愛称D○はぐ)を用いた避難所運営模擬体験
講師 北海道総務部危機対策局危機対策課教育訓練係長 遠山 純章氏
令和4年度研修計画及び指導員会幹事会の体制について

9 全国研修会 ※中止

10 情報誌「里づくり」23・24号

- (1) 発 行 令和4年3月
- (2) 部 数 2,000部
- (3) 内 容 リレーインタビュー① 北広島商工会 経営指導員・振興課長 工藤功治
有限会社タカシマファーム 取締役 高嶋良平
リレーインタビュー② 曹洞宗全久寺 住職 白井 應隆
その他 新規委嘱者紹介等

(別紙様式)

中山間ふるさと・水と土保全対策事業 中山間ふるさと・水と土保全推進事業

事業実施計画(案)

計画期間：令和2年度～令和6年度

(令和4年度)

計 画 内 容

1. 事業実施の基本方針
2. 事業計画
3. 事業実施の成果目標と実績
4. 事業評価と対応

北海道

1. 事業実施の基本方針

目標年度	令和6年度
現状と課題	<p>本道の農村は、農家戸数の減少や高齢化の進行などが続いており、コミュニティ機能が脆弱化し、地域の活力の低下が顕在化している。特に、中山間地域においては、農地の立地条件が悪く、生活環境等の定住条件にも恵まれないため、過疎化・高齢化が進み、担い手への農地集積が進まず遊休農地が増加するなど、農業生産活動の停滞はもとより、地域のコミュニティ機能や農業・農村の多面的機能の発揮に支障を来している状況にある。</p> <p>このため道では、農地や土地改良施設、自然環境、景観など地域の多様な資源を活かして、生態系の保全整備や都市との交流、地域の特色ある料理の開発など様々な活動を促進してきたが、地域住民が主体性を持ち持続的に活動に取り組む地域の確立に向けて気運の醸成とモデル的な活動事例の創出が必要である。</p>
事業実施の基本方針	<p>本事業では、農地や土地改良施設、自然環境、景観、伝統文化などの多様な資源を発掘し、これら資源を地域住民が主体性を持って活かした多様な活動をモデル的に実施することでその効果を検証する。</p> <p>具体的な方法としては、地域の現状把握や住民意識の醸成、明確な目標を設定した3年程度の活動計画の策定、計画に基づいた実践活動、活動の評価・検証などの地域住民による主体的な取組を支援することにより、住民の自立意識を醸成し、継続性を持った効果的な住民活動が実施されるよう促す。</p> <p>また、こうした住民活動を全道に広げるとともに、地域の様々な資源を活用した多様な住民活動を実践・指導する人材として、ふるさと・水と土指導員を委嘱し、現地見学や研修会等の意見交換の場を通して、住民活動の手法や活動意欲をこれまで以上に高め、今後の地域づくりを担う人材として、その育成に努める。</p> <p>全道各地で住民活動の活性化を図る観点から、HPや情報誌の発行などを通して、本事業における取り組みとその成果を全道に普及する。</p>
事業実施計画	<p>全道各地で地域の多様な資源を活かし住民活動が発展・継続することにより、中山間地域におけるコミュニティ機能を維持し、地域再生や地域活性化を図る。ひいては、農業・農村の有する多面的機能を良好に発揮することを目指す。</p>

2. 事業計画

事業（取組）名	事業（取組）内容	達成すべき目標との関連	事業実施要綱上の該当項目	5ヶ年間の事業（量）内容					総事業費
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
地域活動支援事業	道内における地域住民活動の活性化を図るため、他の地区のモデルとなるような多様な地域資源を活かした住民活動を支援する地域活動支援地区をモデル的に支援することでその効果を検証する。	①	ふる水第3-2-(1) 棚田第3-2-(1) 第3-2-(2)	地域の現状を把握し、住民の地域づくりへの意欲を醸成するため、住民の意識調査やアドバイザーを招いた勉強会などの開催、その後の地域住民活動の目標と具体的な活動内容等を定めた3年程度の活動計画の策定、計画に基づく実践活動、活動のステップアップを図るための評価・検証など地域住民が主体となった取組の支援を5ヶ年で10地区程度実施する。					
人材育成	活動の実践と地域住民活動の活性化に向けた指導・助言等を行う人材として、北海道ふるさと・水と土指導員を育成する。	②	ふる水第3-2-(2) 棚田第3-2-(1) 第3-2-(2)	多様な地域住民活動を実践・指導する人材として北海道ふるさと・水と土指導員を委嘱し、指導員相互の情報交換と地域づくりの手法等習得のための研修会や現地研修会を5ヶ年で20回程度開催する。 また、地域住民活動の活性化を図る地域をさらに広げるため、5ヶ年で10人程度新たに指導員を委嘱する。					
推進事業	事業の円滑な執行と効果的な推進、地域住民活動の拡大を図る取組を行う。	③	ふる水第3-2-(3) 棚田第3-2-(1) 第3-2-(2)	事業の進捗状況に応じた効果的な助言を得て、事業の推進を図っていくため、5ヶ年で10回程度委員会を開催する。 また、事業の成果や農業・農村が持つ多面的機能の役割が広く道民に理解され、住民意識の向上や道内各地における住民活動が活発化するよう、市町村や各種活動団体に対し、5ヶ年で10回程度、独自の情報誌を発行するほか、適宜事業の制度説明や活動事例の提供を行う。					
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
中山間ふるさと・水と土保全対策事業費（ふる水と土基金）			計画事業費	13,630	13,618	13,701			
			（実績額）	3,647					
中山間ふるさと・水と土保全推進事業費（棚田基金）			計画事業費	780	782	699			
			（実績額）	780					

3. 事業実施の成果目標と実績

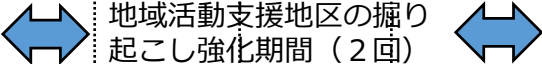
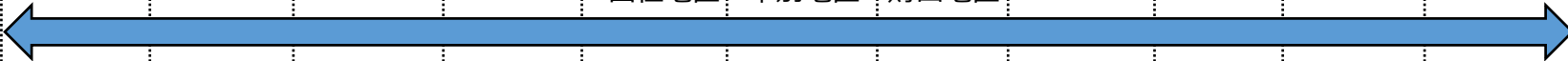
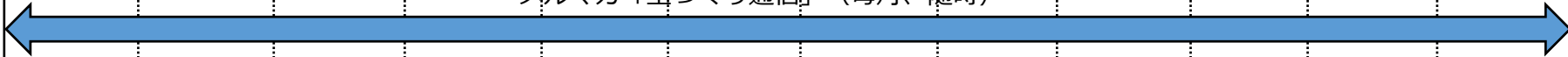
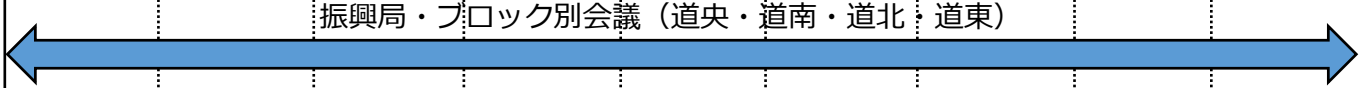
達成すべき目標	指標	基準値	目標値	年度ごとの実績					達成度
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
①	地域活動支援事業	多様な地域資源を活かした住民活動を支援する地域活動支援地区数	10地区	2地区	1地区				
②	人材育成	指導員等の資質向上のための研修会等の開催数	20回	2回	2回				
		指導員の委嘱人数	10人	4人	7人				
③	推進事業	事業の推進に係る効果的な助言を得るための委員会の開催数	10回	2回	2回				
		情報誌の発行回数	10回	2回	1回				

4. 事業評価と対応

達成すべき目標	事業実績の評価		備考	
	外部有識者の所見	所見を踏まえた改善方針		
①	地域活動支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続き新規地区の掘り起こしに努めること。 新型コロナウイルス感染症の影響により計画どおりに活動できていない継続地区においても状況の把握に努め、活動内容の変更など適宜対応すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 機会あるごとに事業の説明を行い、地域の多様な資源を活かした地域住民による主体的な取組を支援できるよう努める。 支援地区において新型コロナウイルス感染症の影響により計画どおりに活動が進まない場合など、計画の進捗を適宜把握し、当該年度計画の活動内容の見直しなど柔軟に対応する。 	
②	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、バス移動等を伴う現地研修及び参集開催を予定していた指導員会は中止となった。地域づくり研修会は、会場においては感染症対策を徹底した上、オンラインも併用して開催されていた。また、新たにオンラインファームツアー体験研修も実施されていた。今後もオンラインで開催できる内容を適宜検討し、研修機会の提供に努めること。また、感染状況が落ち着いた際は参集型の研修開催も検討すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会等は必要に応じオンラインも併用し、研修機会を確保するよう努める。感染状況が落ち着いた場合は感染対策を徹底した上、参集型の研修も開催する。 指導員委嘱については関係機関とも連携の上、現地研修会時に直接説明するなど、積極的に人材の発掘に努める。 	
③	推進事業	<ul style="list-style-type: none"> おおむね計画どおり実施されている。今後も事業のPRに努めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果や農業・農村が持つ多面的機能の役割が広く道民に理解され、住民意識の向上や道内各地における住民活動が活発化するよう、情報誌発行のほか、事業の制度説明や活動事例の提供を随時行う。 	

令和4年度北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 スケジュール (案) 資料4

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研修事業	道主催の研修		第1回幹事会 (札幌)		現地研修 (道北 留萌)			現地研修 (道南 渡島)				第2回幹事会 (札幌)	
	他主催の研修						全国研修 (東京) ※未定						
	情報誌等の発行				里づくり 25号	メルマガ「里づくり通信」(毎月、随時)				里づくり 26号			
推進事業	委員会			第1回委員会									第2回委員会
	活動地区と委員との意見交換会					由仁地区・本別地区・財田地区							
	その他				新・田舎人 112号		新・田舎人 113号			新・田舎人 114号			新・田舎人 115号
その他				農水省 ふる水基金 全国担当者 会議 ※未定		地域活動支援地区の掘り 起こし強化期間(2回)							



令和4年度（2022年度）
北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業計画(案)

1 地域活動支援事業

- (1) 実践活動地区（4地区、括弧は年次）
由仁町由仁地区（4）、本別町本別地区（2）、オホーツク広域地区（2）
洞爺湖町財田地区（1）
- (2) 住民意識醸成地区
新規地区（2地区程度を掘り起こし）

2 研修事業

- (1) 指導員の委嘱（随時）
- (2) 全国研修（未定）
- (3) 地域づくり研修会（2月中旬 札幌市）
- (4) 現地研修（道北・留萌 7月上旬）
（道南・渡島 10月中～下旬）
- (5) 北海道ふるさと・水と土指導員会幹事会（5月中旬、2月中旬 札幌市）
- (6) 北海道ふるさと・水と土指導員会（2月中旬 札幌市）
- (7) 振興局・ブロック別会議 ※日程、開催方法等検討中
- (8) 情報誌「里づくり」の発行 2回（7月、12月）
- (9) メルマガ「里づくり通信」の配信 毎月

3 推進事業

- (1) 委員会の開催 2回（6月、3月）
- (2) 活動地区との意見交換
（由仁地区、本別地区、財田地区）
- (3) 地域活動支援事業地区の掘り起こし強化（7月、10月）
- (4) ホームページの更新
 - ① 指導員プロフィール
 - ② 事業紹介、委員会記録及び活動実績等の情報
- (5) 啓発普及
「新・田舎人」（112～115号）の配布

地域活動支援事業

令和4年度（2022年度）活動計画

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 活動計画

【空知総合振興局】

市町村名	由仁町		活動地区名	由仁地区		活動団体名	WEAVE	
活動の目標	由仁町は、過疎化・高齢化が進行し農村地域としてのコミュニティの脆弱化が深刻で、地域の活力が低下している。このような中、町内には町外から農家へ嫁に来た女性が多く、この女性たちの間から「町内に知人が少ないため、農家の友人を作り情報交換したい。」「地域や農業のことが分からず不安なので、もっと知りたい。」などの要望が上がり、普及センターが仲介役となって若手女性の会『WEAVE』（編む、織るという意味）が平成25年3月に設立された。会の活動目標は、地域・農業への理解を深め、仲間づくりを行うことで、地域の活性化に貢献することである。農村地域にとって女性たちが活躍できる場は限られており、その存在は活性化のキーになる。今後、この『WEAVE』の活動を促進することにより、食に関する伝統技術を継承し、イベントを通じて町内外の活発な交流を進めることで多くの人たちが地域の魅力を再発見し、コミュニティが元気になり、生き活きと農村生活を送ることができるようになる。また、乾燥野菜の販売などを通じて『WEAVE』の持続化を図り、メンバーの生きがいの創造を進め、仲間の拡大を促進することで由仁町全体の魅力と地域力の向上を図るものである。							
活動の方向	No	活動の目的		活動の内容		目標(数量・定性)		
	①	学習・グループ活動事業 町外から嫁いできた女性が、地域の魅力を認識し地域に溶け込むための活動を行うとともに、地域の食の伝統の継承を目指す。	・農産物加工実習 ・新規会員の確保 ・野菜栽培・有機農業など勉強会・研修会の実施	・農産物加工実習の実施 ・新規会員の確保 ・勉強会、研修会の開催	1回/年 2回/年			
	②	乾燥野菜加工販売事業 生産した野菜の有効活用、由仁町の特産品としての商品を目指した乾燥野菜の販売、商品の改善、販売促進の取り組みを行う。	・乾燥野菜の製造販売 ・販売品目の見直しと製造マニュアルの作成 ・作業効率、収益性の改善	・乾燥野菜製造販売 ・販売品目の検討 ・製造マニュアルの改善	50袋/年			
	③	交流事業 野菜の直売を通して消費者交流を図る。魅力あふれる地域づくりにつながるイベントとして「クリスマスイベント」を開催する。SNSを活用して、地域の魅力を発信していく。	・野菜直売の実施 ・「クリスマスイベント」の開催 ・インスタグラムを利用した由仁町農業・農村の魅力発信 ・他農業者との情報交換	・野菜直売の実施 ・「クリスマスイベント」開催 ・情報発信 ・他農業者との交流・情報交換会の開催	6回/年 1回/年 随時 2回/年			
3年間の活動プロセス	関連No	令和 3年度(当初)		令和 3年度(変更)		令和 4年度		
		内容	予算額	内容	予算額	内容	予算額	
	①	農産物加工実習(味噌製造) ・講師料 ・製造に係る資材費	24	農産物加工実習(味噌製造)→中止 ・講師料 ・製造に係る資材費	22.8	農産物加工実習(味噌製造) ・講師料 情報発信についての研修会 ・講師料 ・旅費 先進地へのバス視察研修	20 26 170	
	①②	乾燥野菜加工販売事業 ・製造に係る資材費	30	乾燥野菜加工販売事業 ・製造に係る資材費	54.6	乾燥野菜加工販売事業 ・製造に係る資材費	35	
	③	野菜直売 ・包装に必要な資材費 ・直売所設置に必要な資材費	120	野菜直売 ・包装に必要な資材費 ・直売所設置に必要な資材費	128	野菜直売 ・包装に必要な資材費 ・直売所設置に必要な資材費	48	
	③	クリスマスイベント ・PRポスター等製作費 ・イベントに係る装飾費	73	クリスマスイベント→中止 ・PRポスター等製作費 ・イベントに係る装飾費	0	クリスマスイベント ・PRポスター等製作費 ・イベントに係る装飾費	72	
	合計		247		205.4		371	
関係機関・団体	由仁町産業振興課							
連携・協力機関・団体								

令和4年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
地域活動支援事業実施計画

【空知総合振興局】

市町村名	由仁町	活動地区名	由仁地区	
活動団体名	WEAVE			
関連No.	内容	項目(費目)	金額	積算根拠
①	農産物加工実習(味噌製造)	07_報償費	20,000	講師謝礼5000円×4hr
①	情報発信についての研修会	07_報償費	20,000	講師謝礼5000円×4hr
		08_旅費	6,000	講師旅費3000円×2
①	視察研修	13_使用料及び貸借料	170000	バス借り上げ代(十勝方面)
②	乾燥野菜製造販売	10_需用費	35,000	乾燥剤、脱酸素剤
				食品用包装袋、ラベルシール等
③	野菜直売	10_需用費	48,000	FGパック、パッケージ用シール
				クリップホルダー等
③	クリスマスイベント	10_需用費	72,000	PR用ポスター、カラーズプレー
				方眼模造紙等
	活動支援	10_需用費	66,000	トナーカートリッジ、PPC用紙等
合計			437,000	
費目計		07_報償費	40,000	
		08_旅費	6,000	
		10_需用費	221,000	
		11_役務費	0	
		12_委託料	0	
		13_使用料及び貸借料	170,000	

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 活動計画

【オホーツク総合振興局】

市町村名	美幌町、網走市、小清水町、津別町、大空町、北見市、滝上町		活動地区名	オホーツク広域		活動団体名	オホーツク農村ツーリズム連携会議			
活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> 活動企画団体間の意見交換、情報交換を通じ、人材交流を図るとともに担当者の企画運営力のスキルアップをめざす。 各地域の個性や特性を活かして取組んでいる活動企画団体の各種事業を有機的に構成し、旅行者に提供する体制を整え、オホーツク地域圏での長期滞在者増加を促進する。 地域間の連携を深め、地域住民の参加や協力を得ながら、体験型観光の広域的な受入体制及び教育旅行の広域的な受入体制を構築し、新たな集客を図り地域の活性化を図る。 									
活動の方向	No	活動の目的		活動の内容		目標(数量・定性)				
	①	<ul style="list-style-type: none"> 広域連携の必要性、優位性についての意思統一 各団体間の協力体制の強化 広域連携による具体的な仕組み、商品の開発 		<ul style="list-style-type: none"> 連携会議の運営、幹事会・部会の開催 各団体の取組みを知り広域連携体制の構築を図る 地域住民の協力拡大に向けた研修会等の開催 		<ul style="list-style-type: none"> 幹事会、部会開催回数 年4回 各団体を訪問する現地研修会開催回数 年1回 地域住民対象の研修会回数 年1回 				
	②	<ul style="list-style-type: none"> インバウンド、FITに対応した広域連携による農山漁村活用型の体験コンテンツ造成とガイド人材の育成 教育旅行に対応した体験型コンテンツ造成及び異業種連携による受入体制の構築 		<ul style="list-style-type: none"> インバウンド、FIT対応型広域連携による体験コンテンツツアーの試験実施 ガイド育成、ガイドレベル向上を図る講習会等の開催 教育旅行における体験型コンテンツの試験実施 異業種間連携の意識醸成を図るセミナーの開催 		<ul style="list-style-type: none"> 体験型コンテンツモニターツアー実施(インバウンド、FIT、教育旅行) 年2回 ガイド育成講習会の開催 年2回 異業種間連携強化のためのセミナー開催 年1回 				
③	<ul style="list-style-type: none"> 管内広域連携による教育旅行受入体制の拡大 教育旅行受入体制の整備 		<ul style="list-style-type: none"> 農業体験時に必要な長靴、ツナギ服を確保し、受入体制の充実を図る 先進事例を学ぶ研修会等を開催し、受入農家の拡大と推進態勢の強化を図る 		<ul style="list-style-type: none"> 受入地域の拡大 2団体 → 5団体 地域間連携による教育旅行受入実施 					
3年間の活動プロセス	関連No	令和3年度(当初)		令和3年度(変更)		令和4年度				
		内容		内容		内容		予算額		
	①	<ul style="list-style-type: none"> 各団体を訪問する現地研修会開催(体験料等) 地域住民参加型の研修会開催(講師謝金、旅費、会場使用料)(小計) 		<ul style="list-style-type: none"> 16千円 79千円(95千円) 	<ul style="list-style-type: none"> 各団体を訪問する現地研修会(中止)地域住民参加型の研修会開催 		<ul style="list-style-type: none"> 112千円 	<ul style="list-style-type: none"> 各団体を訪問する現地研修会(1回) 地域住民参加型の研修会開催(1回)(小計) 		<ul style="list-style-type: none"> 16千円 56千円(72千円)
	②	<ul style="list-style-type: none"> 体験コンテンツツアーPR動画作成 ガイド育成講習会(2回) 体験型コンテンツモニターツアー(バス借上料) 異業種間連携強化を図るセミナー開催(1回)(小計) 		<ul style="list-style-type: none"> 103千円 158千円 150千円 79千円(490千円) 	<ul style="list-style-type: none"> 体験コンテンツツアーPR動画作成 野鳥ガイド育成講習会(5回) 体験型コンテンツモニターツアー(中止)異業種間連携強化を図るセミナー開催 		<ul style="list-style-type: none"> 120千円 314千円 116千円 	<ul style="list-style-type: none"> 野鳥ガイド育成講習会(5回) 広域野鳥観察モニターツアー(2回) ツアーパンフレット作成 体験型コンテンツ開発に係る意見交換会(1回)(小計) 		<ul style="list-style-type: none"> 40千円 160千円 100千円 220千円(520千円)
	③	<ul style="list-style-type: none"> 教育旅行受入用長靴(42足) 教育旅行受入用ツナギ服(44着) 霧吹き型ボトル(10本) 消毒液(5L×5) 教育旅行推進研修会(1回) 教育旅行モニターツアー(バス借上料)(小計) 		<ul style="list-style-type: none"> 93千円 119千円 6千円 60千円 61千円 140千円(479千円) 	<ul style="list-style-type: none"> 教育旅行受入用長靴(69足) 教育旅行受入用ツナギ服(69着) 霧吹き型ボトル(10本) (中止)教育旅行推進研修会、教育旅行モニターツアー 		<ul style="list-style-type: none"> 150千円 182千円 6千円 	<ul style="list-style-type: none"> 教育旅行受入用長靴(26足) 教育旅行ニーズ調査(1回) 教育旅行推進研修会(1回) 教育旅行モニターツアー(バス借上料)(小計) 		<ul style="list-style-type: none"> 58千円 220千円 102千円 140千円(520千円)
合計			1,064千円			1,000千円			1,112千円	
活動団体構成員 ※各協議会の構成員は別紙のとおり	美幌町観光まちづくり協議会(※)		オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム推進協議会(※)			小清水町観光協会				
	津別町役場		大空町地域雇用創出協議会(※)		北見市農泊推進協議会(※)		滝上町農泊観光地域づくり協議会(※)			
関係機関・団体	農林水産省北海道農政事務所									
連携・協力機関・団体	株式会社農協観光北見支店									

令和4年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
地域活動支援事業実施計画

【オホーツク総合振興局】

市町村名	美幌町、網走市、小清水町、津別町、大空町、北見市、滝上町	活動地区名	オホーツク広域	
活動団体名	オホーツク農村ツーリズム連携会議			
関連No.	内容	項目(費目)	金額(円)	積算根拠
①	・各団体訪問、現地研修会開催	11_役務費	16,000	(体験料) @ 1,600円 × 10名
		07_報償費	26,000	(講演料) @ 13,000円/時 × 2時間 × 1回
	・地域住民参加型研修会開催	08_旅費	25,000	(道内1泊2日) @ 25,000円/回 × 1回
		13_使用料及び貸借料	5,000	(会場使用料) @ 5,000円/回 × 1回
小計			72,000	
②	・野鳥ガイド育成講習会(全5回)	07_報償費	30,000	(講演料) @ 30,000円/回 × 1回
		13_使用料及び貸借料	10,000	(会場使用料) @ 5,000円/回 × 2回
	・モニターツアー(全2回)	13_使用料及び貸借料	160,000	(バス代) @ 80,000円/回 × 2回
	・ツアーパンフレット作成	12_委託料	100,000	デザイナー委託料
	・体験型コンテンツ開発に係る意見交換会	07_報償費	100,000	体験ガイド謝金(@ 10,000円/時 × 2時間 × 5人)
08_旅費		120,000	招聘専門家旅費交通、宿泊費(2泊3日 @ 60,000円 × 2事業者)	
小計			520,000	
③	・教育旅行受入用長靴	10_需用費	57,200	@ 2,200円 × 26足
		12_委託料	220,000	@ 220,000円 × 1回
	・教育旅行推進研修会	07_報償費	52,000	(講演料) @ 13,000円/時 × 2時間 × 2名 × 1回
		08_旅費	50,000	(道内1泊2日) @ 25,000円 × 2名 × 1回
・教育旅行モニターツアーバス借上料(大阪市内の高校)	13_使用料及び貸借料	140,000	@ 35,000円/1台 × 2台 × 2日	
小計			519,200	
合計			1,111,200	
費目計		07_報償費	208,000	
		08_旅費	195,000	
		10_需用費	57,200	
		11_役務費	16,000	
		12_委託料	320,000	
		13_使用料及び貸借料	315,000	

別記様式第2号

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 活動計画

【十勝総合振興局】

市町村名	本別町	活動地区名	本別地区	活動団体名	ほんべつ☆うきき未来らぼ		
活動の目標	各種団体に属さず地域活動に参加できていなかった住民同士の繋がりを創出し、コミュニティを形成する。そこから老若男女を問わず皆で地域における課題を抽出し、解決に向けた具体的な行動を起こし、住民一丸となって地域の活性化と未来に向けた持続可能なまちづくりを目指す。						
活動の方向	No.	活動の目的	活動の内容		目標（数量・定性）		
	①	住民同士の繋がりを創出し、地域における連携、協体制度を強化する。住民主体の持続可能なまちづくりに向け意識を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ほんべつ☆うきき未来らぼミーティング ◆住民主体のまちづくりに向けた研修会 		<ul style="list-style-type: none"> ◆ミーティング開催（6回/年） ◆まちづくり研修会開催（1回/年） ◆幅広い地域住民の参加と意識の共有（随時） ◆先進地視察による勉強会の実施（1回/年） 		
	②	関係人口の増加や移住者等とのコミュニティを形成し、都市と地域や地域内での交流を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ◆体験イベントをもとに町内外の方との交流を深める。 ◆移住されてきた方等を紹介カードにて発信し地域内での活動を紹介、応援する。 ◆新たな発想で町内スポットを巡礼地化し、発信・集客を目指す。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆移住者交流イベントの開催（1回/年） ◆街コンイベントの開催（2回/年） ◆イベント用ユニフォームの製作 ◆紹介カード作成・配布 ◆何かの巡礼地化を検討し、スポット探し・発信を行う（1回/3年） 		
	③	新たな観光資源を発掘・発信することによって町内の魅力を多くの方々に知ってもらふ。	<ul style="list-style-type: none"> ◆町内の自然を生かした様々なアクティビティの検討開発 ◆発掘したアクティビティの体験会の開催 ◆実証に向けた体制の検討 		<ul style="list-style-type: none"> ◆発掘・実証に向けた検討会議（4回/年） ◆アクティビティ体験会の開催（1回/年） 		
	④	子供たちと本別だから出来る事の体験活動や地域学習を通して郷土愛を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ◆子供たちが町を一度離れても戻ってきたと思ってもらえるような活動をする。 ◆特産物での食育体験や屋外活動体験 		<ul style="list-style-type: none"> ◆地元産食材（豆・小麦など）を使用した食育体験（3回/年） ◆写真・イラスト展の実施（1回/年） ◆体験講話会の開催（1回/年） ◆地元企業見学の実施（1回/年） 		
	⑤	地元食材のアピールや町民・学生と連携したフードロス対策への取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ◆地元産食材を活用した調味料（万能タレ）の試作・開発 ◆試食会・アンケート収集により地域での『このみ』の調査 ◆地域食材の可能性のリサーチ、食育推進計画作成検討 		<ul style="list-style-type: none"> ◆試作品開発会の実施（3回/年） ◆試作品試食会・広報・アンケートの実施（1回/年） ◆食育推進計画作成の検討会議の実施（2回/年） 		
⑥	各活動の情報発信を行うことによって町内外への認知度を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ◆各活動担当者からの活動報告をSNS等にて発信する。 ◆情報収集により各活動担当者への情報提供を行う。 ◆クリエイター等と協力して幅広い発信にてアピールする。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆各らぼの活動状況取材（随時） ◆チラシ・SNS等への掲載・アップロード（随時） ◆町内外の様々な情報の収集・情報提供（随時） ◆アートを活用しての発信の検討会実施（1回/年） 			
3年間の活動プロセス	関連No.	令和3年度（当初）		令和3年度（変更）		令和4年度	
		内容	予算額（千円）	内容	予算額（千円）	内容	予算額（千円）
	①	全体ミーティング	0	全体ミーティング	0	全体ミーティング	0
	①	まちづくり研修会	58	※中止	0	まちづくり研修会	58
	①	先進地視察	266	※中止	0	先進地視察	356
	②	移住者交流イベント	80	移住者交流イベント	0	街コンイベント	130
	②	ユニフォーム制作	30	ユニフォーム制作	41		
	②	紹介カード作成	50	※中止	0	紹介カード作成	30
	③	アクティビティ講演会	56	※中止	0		
	③	アクティビティ体験会	130	アクティビティ体験会	24	アクティビティ体験会	160
	④	食育体験	132	食育体験	28	食育体験	86
	④	ワークショップ体験	86	※中止	0	講演会	36
	④					企業見学	26
	④					写真展	30
⑤	試作品開発	70	試作品開発	0	試作品開発	120	
⑤	試作品試食会	70	※中止	0	試作品試食会	30	
⑤	食育推進計画検討会議	0	※中止	0	食育推進計画検討会議	0	
⑥	広報チラシ	180	※中止	0	広報チラシ	180	
⑥	アート活用検討会	0	※中止	0	アート活用検討会	0	
関係機関・団体	本別町役場						
連携・協力機関・団体	本別町観光協会		本別町農業協同組合・青年部・女性部		道立農業大学校		
	本別町商工会・青年部・女性部		本別町立勇足中学校				

別記様式第3号

令和4年度北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 地域活動支援事業実施計画

【十勝総合振興局】

市町村名	本別町		活動地区名	本別地区		
活動団体名	ほんべつ☆うきうき未来らぼ					
関連No.	内容	項目(費目)	金額(円)	積算根拠		
①	まちづくり研修会	07_報償費	28,000	14,000円×2時間		
		08_旅費	30,000	札幌～本別 1泊2日		
	先進地視察	07_報償費	26,000	13,000円×2時間		
		10_需用費	90,000	機材購入		
		13_使用料及び賃借料	200,000	バス借上料		
小計			40,000	会場費		
			414,000			
②	紹介カード作成	10_需用費	30,000	配布カード3,000円×10名分		
	HOTほんべつ街コンイベント	10_需用費	130,000	材料費		
小計			160,000			
③	アクティビティー体験会	11_役務費	160,000	体験料		
小計			160,000			
④	食育体験	07_報償費	26,000	13,000円×2時間		
		08_旅費	10,000	本別町内		
		10_需用費	50,000	材料費		
	講演会	07_報償費	26,000	13,000円×2時間		
		08_旅費	10,000	本別町内		
企業見学	07_報償費	26,000	13,000円×2時間			
写真展	10_需用費	20,000	材料費			
	13_使用料及び賃借料	10,000	会場費			
小計			178,000			
⑤	試作品開発	10_需用費	100,000	材料費		
		13_使用料及び賃借料	20,000	会場費		
	試作品試食会	10_需用費	20,000	材料費		
		13_使用料及び賃借料	10,000	会場費		
小計			150,000			
⑥	広報チラシ	10_需用費	140,000	印刷代		
		11_役務費	40,000	折込代		
小計			180,000			
合計						
費目計			07_報償費	132,000		
			08_旅費	50,000		
			10_需用費	580,000		
			11_役務費	200,000		
			12_委託費	0		
		13_使用料及び賃借料	280,000			
			1,242,000			

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 地域活動支援事業に係る実施要望調書

総合振興局等名	胆振総合振興局	市町村名	洞爺湖町
活動地区名	財田地区	活動団体名	財田米ブランド強化推進委員会
市町村担当者所属・氏名	農業振興課 主幹 村上友和	関係指導員名	指導員 青山 伸子

活動地区及び活動団体概要

■地区の概要

洞爺湖町は、北海道南西部に位置する人口8,260人(※令和3年11月30日現在)の町で、平成18年3月27日に虻田町と洞爺村が合併し「洞爺湖町」となった。町の特色としては、洞爺湖と有珠山と噴火湾に囲まれた自然豊かな町であり、洞爺湖町を中心とする地域は気候が温暖なことから「北海道の湘南地方」と呼ばれ、交通の便も良く観光景観に恵まれていることから北海道有数の観光地となっている。

町の基幹産業である農業は、野菜(根菜、果菜、葉菜類等)、畑作物、水稲、畜産と多彩で、クリーン農業にも取り組んでおり、JAとうや湖では全国に先駆け平成21年にGLOBALG.A.Pを取得した。財田・川東地区では水稲や施設野菜を中心とした農業経営が展開されている。

■活動団体の概要

- 目的 洞爺湖町財田・川東地区で生産されている『財田米』の地域ブランドとしての確立を図り、『財田米』のPRによる付加価値向上と食育、地産地消を推進して地域の応援団づくりにつなげる。
- 設立 令和4年2月22日
- 構成員 洞爺湖町財田・川東地区の水稲農業者 14戸
- 代表者 洞爺湖町ブランド強化推進委員会 代表 塩田 満
- 活動経歴 令和2年度から「洞爺湖町下台地区を考える会」において地区有志者、関係機関と財田米のブランド化に向けた方向性について検討・協議を行い、財田米生産者全員へ「財田米の定義」について提案を行い、エリアを確定した後、販売促進と付加価値向上に向けた検討を重ねている。

活動地区及び活動団体の活動の現状と課題

洞爺下台地区の農業に係る将来構想を協議する「洞爺下台地区を考える会」(平成28年発足)をきっかけに、「財田・川東地域資源保全組合」(※多面的機能支払事業)、「財田・川東水利用組合」(※農地耕作条件改善事業)がそれぞれ設立され、現在まで財田・川東地区の特色である水稲農業経営が持続できるよう地域の農業者が主体的に基盤整備等に取り組んでいる。

本地区は恵まれた土地条件、気象条件を活かし、品質の良い水稲生産を行っているが、生産者や直接販売している消費者の高齢化などから将来的な安定生産・販売が危惧されている。そのため、都市部を含めた消費者に向けたPR活動や、次世代の担い手を育むため地域の子供たちに財田米の歴史的・風土的生産背景を学んでもらう取組が必要となっている。

地域の活性化に向けた展開方向

■実践活動 (令和4～6年度)

<イベントの開催等>

地元イベントにおける出展等、効果的なPR活動とプロモーションビデオの製作等

<地産地消の取組>

地元小学生等を対象とした食育活動の実施

<地域PR>

HPやパンフレット等活用した効果的な情報発信、地元女性に財田米に合う総菜等の調理研修会等

<販売促進>

のぼりやポスター、ステッカー等共通のPR素材活用による販売促進効果の向上、都市部での販売促進PR活動

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 活動計画

【胆振総合振興局】

市町村名	洞爺湖町		活動地区名	財田地区		活動団体名	財田米ブランド強化推進委員会			
活動の目標	当地区で生産されている財田米について学ぶ機会を設け、近隣地域住民や子供たちの地域産業に対する理解の醸成を図る。また、先人たちが築き上げてきた「財田米」への誇りや愛着を育むことで生産者の意欲向上と集落機能の維持につなげる。 財田米の付加価値向上に向けた取組とPR活動を行い、認知度及び地域ブランド力の向上や顧客満足度の上昇、洞爺湖町への観光客の入り込み増を目指し、地域の活性化につなげる。									
活動の方向	No	活動の目的		活動の内容		目標(数量・定性)				
	①	財田米の啓蒙活動による付加価値向上への取り組み		<ul style="list-style-type: none"> HP、ポスター、パンフレット等活用によるPR プロモーションビデオの製作 地元女性を講師に財田米に合う惣菜(おかず、ご飯のお供)研修会開催と消費者へのメニュー配布 		<ul style="list-style-type: none"> HPの開設、SNSの更新(随時) ポスター作成 100枚/年 パンフレット、ステッカー作成 1,000枚/年 財田米に合う料理研修会開催 1回/年 				
	②	子供から大人までを対象とした食育の展開による地産地消活動を推進し、財田米に対する理解の醸成を図る		<ul style="list-style-type: none"> 地元小学生や園児を対象とした食育活動(田植え、稲刈り体験等) 地域イベント(洞爺湖マラソン、大収穫祭等)を活用した試食会等の開催 		<ul style="list-style-type: none"> 体験学習 2回/年 試食会の開催 2回/年 				
	③	財田米の安定販売に向けた認知度向上への取り組み		<ul style="list-style-type: none"> 都市部での認知度向上のためのPR活動 		<ul style="list-style-type: none"> 都市部での認知度向上のためのPR事業 1回/年 				
3年間の活動プロセス	関連No	令和4年度		令和5年度		令和6年度				
		内容		予算額	内容		予算額	内容		予算額
	①	<ul style="list-style-type: none"> HPの開設 ポスター、パンフレット、ステッカー等作成 		980千円	<ul style="list-style-type: none"> パンフレット、ステッカー等増刷 		300千円	<ul style="list-style-type: none"> パンフレット、ステッカー等増刷 		300千円
	②	<ul style="list-style-type: none"> 地元小学生や園児を対象とした食育活動(田植え、稲刈り体験等) 		20千円	<ul style="list-style-type: none"> 地元小学生や園児を対象とした食育活動(田植え、稲刈り体験等) 地域イベントを活用した試食会等の開催 地元女性を講師に財田米に合う惣菜等の研修会開催 		400千円	<ul style="list-style-type: none"> 地元小学生や園児を対象とした食育活動(田植え、稲刈り体験等) 地域イベントを活用した試食会等の開催 地元女性を講師に財田米に合う惣菜研修会開催と消費者へのメニュー配布 		400千円
③				<ul style="list-style-type: none"> 都市部での認知度向上のためのPR活動 		300千円	<ul style="list-style-type: none"> 都市部での認知度向上のための活動 		300千円	
関係機関・団体	洞爺湖町役場		胆振農業改良普及センター		洞爺湖町教育委員会		洞爺湖町観光協会			
連携・協力機関・団体	とうや湖農業協同組合									

令和4年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
地域活動支援事業実施計画

【胆振総合振興局】

市町村名	洞爺湖町	活動地区名	財田地区	
活動団体名	財田米ブランド強化推進委員会			
関連No.	内容	項目(費目)	金額	積算根拠
①	財田米PRに向けたHPの作成	12_委託料	300,000	HP新規製作委託費
①	財田米PRに向けたポスター、パンフレット、ステッカー等の作成	10_需用費	80,000	資材購入費
		12_委託料	300,000	デザイン委託費
		11_役務費	300,000	ポスター等印刷代
②	地元小学生や園児を対象とした食育活動(田植え、稲刈り体験等)	10_需用費	20,000	試食会経費
合計			1,000,000	
費目計		07_報償費	0	
		08_旅費	0	
		10_需用費	100,000	
		11_役務費	300,000	
		12_委託料	600,000	
		13_使用料及び貸借料	0	

令和 3 年度

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業に係る
点検・評価報告書（案）

北海道農政部農村振興局農村設計課

I 点検・評価について

1 点検・評価の対象地区

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業の地域活動支援事業の実施地区のうち、令和3年度に事業を完了した根室市厚床地区、上ノ国町上ノ国地区。

2 点検・評価の方法

事業実施地区を訪問し、事業の進捗状況の確認や関係者へのアドバイスを行っている北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会委員からの意見や、毎年度の活動終了時に行う活動の評価・検証結果を基に道が評価した。

3 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会委員

所 属	職 名	氏 名	備 考
NPO 法人北海道食の自給ネットワーク	事務局長	大熊 久美子	
フードライター		小西 由稀	
北海道大学大学院農学研究院	准教授	小林 国之	
北海道土地改良事業団体連合会	技術監	中山 篤史	
北海道大学大学院農学研究院	講師	山本 忠男	座長

(氏名五十音順)

II 根室市厚床地区に係る評価について

1 厚床地区の活動内容について

(1) 地域及び活動団体の概要

本地区の根室市は、北海道の東部に位置し、昭和32年、根室町と和田村の合併で誕生した、面積506.25km²、人口24,858人、世帯数12,469戸（令和3年1月1日現在・住民基本台帳）の市である。

北はオホーツク海、南は太平洋を臨み、西には白鳥の湖として知られる風蓮湖と世界有数の野鳥・水鳥の飛来地として有名である春国岱のラムサール条約登録湿地を有する自然豊かなまちである。気候は海洋性気候で年間の海霧日数は例年100日前後に達する。

根室市の中心街から西に約30kmの距離に位置する厚床地区は、大規模な草地が造成されており、酪農業が中心産業となっている。釧路市方面へ通じる国道44号線、別海町方面へ通じる国道243号の国道2路線や、JR根室本線を有し、バス路線も充実していることから、根室管内の玄関口として交通拠点となっている。また、中標津空港から車で1時間圏内に位置し、首都圏からのアクセスもよい。

農協青年部の有志5名で結成した「酪農家集団AB-MOB I T」は、交流人口の増加と酪農への理解を深めてもらうことを目的に、厚床地区にフットパスコースを整備（H16開通）。キャンプ場やファームレストランなど地域の施設と連動した交流活動を行ってきた。しかしながら地区としては、ラムサール条約登録湿地や農村景観、フットパスコースなど魅力的な地域資源のポテンシャルを生かし切れていない、生産年齢人口が少なく地域活動の担い手が不足、地域住民を巻き込んだ地域活動ができていないなどの課題があった。

こうした中、「酪農家集団AB-MOB I T」を中心に、厚床連合町会やJA等を交えた新たな地域づくりの組織としてH29年厚床地域農村再生プロジェクトを立ち上げ、地域活性化に向けた、都市住民との地域間交流促進による交流人口の増加や、地域の世代間交流、地域資源の魅力の確認・共有とその活用手法の整理、地域住民自らが地域づくり構想を作り上げるプロセス体感を専門家を交えて行っていくことで、今後の厚床地区の姿を目標づけることとした。

(2) 活動の推移

活動事項	年度	活動状況
<ul style="list-style-type: none"> ・厚床地域ビジョン作成に関する取組み ・活動内容の地域への周知及び理解の促進 	30	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>防災キャンプ（11月）参加者数：62名</u> ・<u>交流会（パークゴルフ大会）（8月）参加者数：48名</u> ・<u>ワークショップ（7月）参加者数：19名</u> ・<u>ワークショップ（10月）参加者数：17名</u> ・<u>ワークショップ（1月）参加者数：9名</u> ・<u>ワークショップ（3月）参加者数：29名</u>
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>厚床防災合宿（1月）参加者数：32名</u> ・<u>あっとこ農園（4月～10月）参加者数：10名</u> ・<u>フットパスコース整備（9月）参加者数：40名</u> ・<u>ワークショップ（8月）参加者数：14名</u> ・<u>ワークショップ（11月）参加者数：17名</u> ・<u>ワークショップ（3月）参加者数：10名</u>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>ワークショップ（7月）参加者数：15名</u> ・<u>アンケート調査（9月）参加者数：53名</u> ・<u>アンケート調査（10月）参加者数：27名</u> ・<u>アンケート調査結果報告会（3月）昼の部参加者数：22名、夜の部参加者数：19名</u>
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>フットパスコース整備（プロモーション動画作成（6月～10月）</u> ・<u>ワークショップ（3月）参加者数：○名（予定）</u>

注) 下線は、北海道中山間ふるさと水と土保全対策事業より対応

【活動状況写真】

平成30年度

防災キャンプ



防災講座



新聞食器作り



衛星携帯電話実演



夕食準備



釜戸炊飯



夕食



防災紙芝居



段ボールベッド



段ボールベッド



自由時間



自由時間



集合写真



朝食準備



市街地散策



市街地散策 (神社)



市街地散策 (転車台跡)



市街地散策 (フットパス)

交流会



ワークショップ



令和元年度

厚床防災合宿



アイスブレイク（自己紹介）



なまずの学校



夕食準備



夕食準備



夕食



お風呂（別海町郊楽苑へ）



防災絵本読み聞かせ



段ボールベッド作成



ラジオ体操



朝食準備



朝食



心肺蘇生の講習



心肺蘇生の講習



防災運動会



閉会式

あつとこ農園



畑整備状況



ビニルハウス設置



作物生育状況

フットパスコース整備



実施前打合せ



現地確認



現地確認

ワークショップ



令和2年度

ワークショップ



アンケート調査



アンケート調査結果報告会



令和3年度

フットパスコース整備（プロモーション動画作成）



ワークショップ

(3) 活動への委員会の助言と反映状況

① 委員会からの主な助言内容

- ・ ワークショップに子供も参加してもらい、意見を聞いてはどうか。
- ・ あつとこ農園は小学校と連携してはどうか。

② 委員会の助言の反映及び効果

- ・ ワークショップには親が来ているから子供も来ているという形で子供も参加しているが、それ以外にも子供たちの話を聞く機会を持つため、防災キャンプという形で子供たちや地域住民に集ってもらい、意見交換する機会を設けた。
- ・ 旧厚床小学校の敷地を借りて実施。厚床小中学校の校長先生やPTAの協力があり、繋がりが出来てきている。

(4) 目標の達成状況

活動計画に明記した目標（数値・定性）の達成状況を以下に示す。

目標（数値・定性）	目標の達成状況
1 厚床地域ビジョン作成に関する取組み ・ 地域間及び世代間交流人口の増加 ・ 地域資源（魅力）の確認	<ul style="list-style-type: none">・ 防災知識の習得と地域内の多世代間の交流促進を目的に防災キャンプ（R1は防災合宿に改称）を開催し、地域の子供からお年寄りまでが参加した（H30、R1）・ 農協主催のパークゴルフ大会に地域住民も参加し、農業者と地域住民との地域間交流を図った。（H30）
2 活動内容の地域への周知及び理解の促進	<ul style="list-style-type: none">・ 専修大学の学生とフットパスコースを整備した。（R1）・ 住民同士のふれあいの場として地元住民が共同で野菜を栽培、収穫するあつとこ農園を作った。（R1）・ 「地域資源・課題の確認と共有」、「地域課題の解決に向けて」、「活動計画の検討」、「地域づくりについて」などをテーマにワークショップを開催した。（H30、R1、R2、R3）・ 厚床地域の住民及び関係者を対象に、「厚床地域の未来を形づくるためのアンケート調査」を実施。買い物・医療・福祉・娯楽・生活などで困っていることなどの聞き取りを行った。（R2）・ 調査結果報告会を、地域住民が幅広く参加できるよう、昼の部と夜の部の2回に分けて開催した。（R2）・ 「厚床地域の未来を形づくるためのアンケート」調査結果をテーマごとにまとめ、「厚床通信」として地域住民に配布した。（R3）

	<ul style="list-style-type: none"> 厚床地域や地域資源としてのフットパスコースの魅力発信のため、プロモーション動画を作成した。 (R3)
--	--

2 厚床地区の活動の評価について

当該地区の活動を、(1) 活動の状況、(2) 活動への支援体制、(3) ふる水事業の目的(趣旨)達成の可能性という3つの視点に基づき評価する。

(1) 活動の状況

本地区の主な活動内容は、地域間及び世代間の交流を図り、地域資源の確認を行う中で、地域ビジョン作成に向けて意識を高め、地域ビジョンを作成していくことであり、以下に主な活動の状況について記載。

①防災キャンプ(合宿)

防災キャンプ(合宿)は、1泊2日の行程でH30年とR1年の2回実施。

地域の子供からお年寄りまで参加し、防災をテーマとした体験活動や、食事、宿泊、厚床の歴史を勉強する町歩きを共に行うことで、楽しみながら世代間交流を図り、地域資源の確認を行うことができた。

②フットパスコース

フットパスコースについては専修大学(神奈川県)の学生がA B-M O B I Tと共に整備。新コースのルートの確認作業を実施した。北海道胆振東部地震や新型コロナウイルス感染拡大の影響で、専修大学の学生が携わる作業は令和元年度しか実施できなかったが、専修大学との関わりは事業開始前から続いており、障害がなくなれば今後も交流は続いていくものと考えている。

③あっとこ農園

あっとこ農園は令和元年度に旧厚床小学校の菜園で使用されていたビニールハウス1棟と、露地の畑を再生して実施。収穫した野菜は、防災合宿の夕食にも利用した。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、春先の準備ができなかったこと、また、農園の管理が特定の者に偏ってしまい、負担となっていたこともあり、結果的に令和元年度のみの実施となった。実施時においては、教育関係者の協力もあり繋がりができていたことを考えると、管理体制の構築が難しい課題であるが、地域住民同士の日常的な関わりを作る場として再開が望まれる。

④ワークショップ

ワークショップについては、地域住民の参加を得て毎年実施し、地域の課題を掘り起こし、地域ビジョンを作成していくプロセスを体験することができた。特に「厚床地域の未来を形づくるためのアンケート調査」では、厚床での暮らしぶりのほか、厚床会館の改修に関する意見についても聴き取りを行い、会館に求める機能として挙げられた「子供たちが遊べる場所」「つながりづくりの場所」などの声は、現在の地域の暮らしで求めていることの現れともいえ、地域住民の意見を聴き取る貴重な場とな

った。また、アンケート調査結果の住民報告会では、市街地と農村部に分けて整理されたアンケート結果を見ながら意見交換が行われ、参加住民それぞれの問題意識の違いについても明らかとなるなど、アンケート調査報告会を含むワークショップは、活動内容の地域への周知や理解を促す役割も果たしたといえ、高い効果を上げたと考える。

(2) 活動への支援体制

北海道大学大学院農学研究院小林准教授は地域ビジョン作成に関する取組みを全面的に支援。また、ゼミ生も加え、住民アンケート調査及びとりまとめ、防災キャンプ（合宿）での子供たちへの指導などを支援した。専修大学泉教授はフィールドワークの一環としてフットパスコース整備を支援。ゼミ生が活動団体と共に実施した。防災合宿は北海道教育大学釧路校宮前准教授が浦幌町で実施している「浦幌通楽（学）合宿」をヒントに防災キャンプと融合させた形でゼミ生が実施。根室市は、防災キャンプでは防災についての講演や備蓄用非常食の提供、ワークショップでは市政に関する情報提供の側面から支援した。

(3) ふる水事業の目的（趣旨）の達成の可能性

地域に住んでいる大人と子供との間、もしくは市街地の住人と農村部の住人との間で、自分たちの地域について考える機会、話し合う機会がなかったなかで、どうすれば人が集まり話し合うきっかけが生まれるのかを考え、子供からお年寄りまでが参加する交流事業を実施したことは、地域間・世代間交流を図るという目標を達成し、今後の地域活性化に繋がる取組みであったと評価できる。

一方、そうした地域住民交流の場であった、あつとこ農園や防災合宿が事業後半中止となり、継続できなかったことは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で人と人との直接的な交流が妨げられたことから、ある程度やむを得ない結果ともいえる。

しかしながら、ワークショップやアンケート調査で、住民それぞれの地域に対する思いや希望が明らかになり、地域の課題や展望を本地区が得られたことは大きな成果となった。

これらの成果から本地区は、地域づくりに向けたスタートラインに本格的に立ったともいえ、今後活動団体は、地域活性化の核として地域住民とともに本事業を通じて交流が生まれた学生や若手農業者、教育関係者などと手を携え、新たな地域づくりの担い手となり、地域づくりに携わっていくことが望まれる。また、防災合宿に参加した子供たちが成長して、自分たちが経験したことをさらに下の世代に繋いでいくことを期待するものである。

Ⅲ 上ノ国町上ノ国地区に係る評価について

1 上ノ国地区の活動内容について

(1) 地域及び活動団体の概要

本地区の上ノ国町は、渡島半島の南西、檜山振興局管内の最南端に位置する、明治12年、上ノ国村三カ所に戸長役場が設置され誕生した、面積547.71km²、人口4,615人、世帯数2,453戸（令和3年1月1日現在・住民基本台帳）の町である。15世紀ころ、北海道南部の日本海側は上ノ国（かみのくに）、太平洋側は下の国（しものくに）と称され、勝山館を擁し、日本海・北方貿易の拠点として栄えたこの地に上ノ国（かみのくに）の名前が残ったことに町名は由来する。

北は江差町、厚沢部町、南は松前町、福島町、東は渡島山地の分水嶺をもって木古内町、知内町と接し、西は日本海に延長30kmに渡って面している。町土の92%が地下資源と森林資源を包蔵する山地で占められ、平野部は、北部を流れる天野川、中部を流れる大安在川、南部の石崎川流域に形成され、農用地として利用されている。比較的温暖で日照時間は短く、5月から6月までこの地方特有のヤマセ（南東の風）が吹き、冬期間は北西の季節風が吹き荒れる。

産業構造は、昭和35年の最盛期には農林漁業を基幹産業とし、マンガン鉱山などの開発による鉱業就労者などによって支えられてきたが、現在は鉱山の閉山と関連企業の衰退をはじめ基幹産業である農林漁業においては従事者の高齢化、後継者不足が急激に進み、特に漁業では漁獲量の減少など依然として厳しい状況に置かれている。そのため農業分野では振興作物（小豆・アスパラガス・いちご・さやいんげん・さやえんどう・にら・馬鈴薯・ブロッコリー）のブランド化を進め、漁業では種苗生産や放流に転換を図りつつ、漁場整備や藻場環境の保全に取り組んでいる。

このうち絹さやえんどうは全道屈指の規模・生産量を誇っており、品質もよく市場関係者から高い評価を得ているが、町内での流通はほとんどなく、また、産地ならではの料理や加工品もなく、地元で「食」として根付いていない状況であった。

こうした中、絹さやえんどうを軸とした生産者と地域を結ぶ取組みを通じて産地の維持と地産地消の促進、「食」を軸とした地域振興を実現するため、平成28年に生産組合、JA等で絹さやえんどうの利用実態調査を開始。絹さやえんどうを使用した多様な家庭料理があることを確認し、料理集の作成や、食育と需要喚起を兼ねたイベントを実施したが、町民への周知や地産地消が進まない状況であった。

このため、檜山南部サヤエンドウ生産組合企画班では、町民向けのイベントや食育活動を通じ、上ノ国町が絹さやえんどうの産地であることの周知と需要の喚起、絹さやえんどう料理を地域の定番料理として定着させること、生産者に対しては、地域の食文化や経済にとって必要不可欠な作物であることを理解してもらい、生産意欲の向上を図ることを目指している。

(2) 活動の推移

活動事項	年度	活動状況
町民の「絹さやえんどう」に対する関心を高める	30	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>絹さやえんどう料理教室の開催（2月）参加者数：37名</u> ・<u>上ノ国産絹さやえんどうのPR（10月）参加者数：59名</u>
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>絹さやえんどうのPR（7月）参加者数：20名</u> ・<u>絹さやえんどうのPR（10月）参加者数：80名</u>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>地元学校との絹さやえんどう利活用連携活動（河北小学校食育授業）（11月）参加者数：15名</u>
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>地元学校との絹さやえんどう利活用連携活動（河北小学校収穫体験）（9月）参加者数：15名</u> ・<u>地元学校との絹さやえんどう利活用連携活動（河北小学校食育授業）（12月）参加者数：15名</u> ・<u>地元学校との絹さやえんどう利活用連携活動（滝沢小学校食育授業）（12月）参加者数：20名</u> ・<u>絹さやえんどうのレシピ集の改訂（3月）</u>
「絹さやえんどう料理、加工品」の開発、定着	30	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>絹さやえんどう料理の開発（10月1回目）参加者数：11名</u> ・<u>絹さやえんどう料理の開発（10月2回目）参加者数：4名</u> ・<u>絹さやえんどうスイーツの開発（2月）参加者数：37名</u> ・<u>絹さやえんどう料理検討会の開催（3月）参加者数：39名</u>
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>絹さやえんどう料理の開発（9月）参加者数：9名</u> ・<u>地元高校生による絹さやえんどう料理の開発（10月）参加者数：22名</u> ・<u>地元学校との料理検討会（お年寄りのための試食会）（12月）参加者数：26名</u> ・<u>絹さや大福の発売開始（8月）</u>

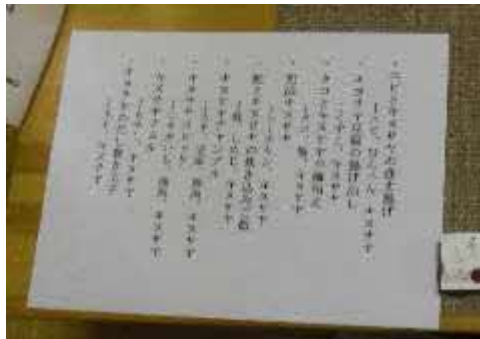
	2	・ <u>加工品の開発（粉末づくり）（7月）参加者数：7名</u>
	3	・ <u>加工品の開発（粉末を利用した商品化の検討）（4月）</u>
活動体制の強化	30	・ <u>農業者、関係機関及び商工観光業者との連携強化（10月）</u>
	1	・ <u>農業者、関係機関及び商工観光業者との連携強化（11月）</u>
	2	・ <u>農業者、関係機関及び商工観光業者との連携強化（7月）</u>
	3	・ <u>農業者、関係機関及び商工観光業者との連携強化（3月）</u>
「絹さやえんどう」の町内流通	2	・ <u>道の駅での絹さやえんどうの販売（9月）</u>
	3	・ <u>農業者、需要者等と町内流通について検討（12月）</u>

注) 下線は、北海道中山間ふるさと水と土保全対策事業より対応

【活動状況写真】

平成30年度

絹さやえんどう料理の開発（10月1回目）



絹さやえんどう料理の開発（10月2回目）



絹さやえんどう料理教室（2月）



絹さやえんどう料理検討会（3月）

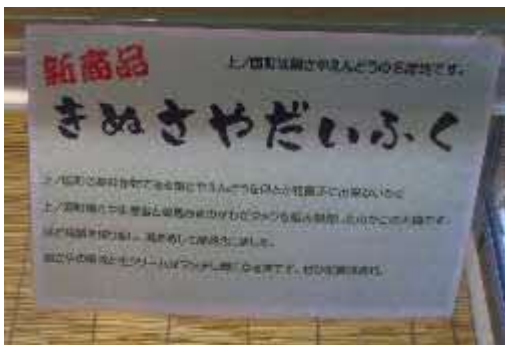


令和元年度

絹さやえんどうのPR（7、10月）



絹さや大福の発売開始（8月）



地元高校生による絹さやえんどう料理の開発（10月）



地元学校との料理検討会（お年寄りのための試食会）（12月）



令和2年度

加工品の開発（粉末づくり）、農業者、関係機関及び商工観光業者との連携強化（7月）



地元学校との絹さやえんどう利活用連携活動（河北小学校食育授業）（11月）



令和3年度

加工品の開発（粉末を利用した商品化の検討）（4月）



地元学校との絹さやえんどう利活用連携活動（河北小学校収穫体験）（9月）



地元学校との絹さやえんどう利活用連携活動（河北小学校食育授業）（12月）



地元学校との絹さやえんどう利活用連携活動（滝沢小学校食育授業）（12月）



(3) 活動への委員会の助言と反映状況

① 委員会からの主な助言内容

- ・ 絹さやえんどうの収穫体験など、小学生向けの食育をしたほうがよいのでは。
- ・ 地元の学校関係者や料理人など事業を通じて培った地域の人たちとの繋がりを事業終了後も維持していく必要があるのではないか。
- ・ レシピ集は冊子で作成だけではなく、役場やJAのホームページに掲載してもらってはどうか。
- ・ 子供たちへのアンケートや作文をやってみてはどうか。

② 委員会の助言の反映及び効果

- ・ 河北小学校の3・4年の児童に収穫体験をしてもらった。また、5・6年の児童を対象に、レシピ集に掲載している絹さやえんどうの味噌汁、卵とじ、ぎょうざ、肉巻きの調理指導を行った。滝沢小学校では児童とその親を対象に、親子クッキング教室を開催した。
- ・ 事業終了後の継続的な活動に向けては、今後も、生産組合、小学校及び関係機関が会合を持ち、食育授業を実施する予定だが、活動の幅を広げるためにも地元料理人や商工会の参加も呼びかけていく。
- ・ レシピ集は上ノ国町、檜山農業改良普及センターのホームページに掲載。また、一部レシピについては「クックパッド公式キッチン「北海道」」に掲載している。
- ・ 河北小学校の食育授業の後にアンケートを実施し、おいしい料理が作れたのでうれしかった、来年もサヤエンドウ料理を作ってみたいなどの感想があった。河北小学校の収穫体験では、生徒たちより、さやえんどうに関する質問の声が多くあげられた（どこで買えるのか、さやえんどう栽培の苦労は？等々）。本活動を通し、地元特産品であるさやえんどうに対する関心を高めることができた。

(4) 目標の達成状況

活動計画に明記した目標（数値・定性）の達成状況を以下に示す。

目標（数値・定性）	目標の達成状況
1 町民の「絹さやえんどう」に対する関心を高める 食育イベントの開催、 「絹さやえんどう」に関 係した情報の発信	<ul style="list-style-type: none">・ 町民を対象とした親子料理教室で絹さやえんどう餡を使用した和菓子づくりを行った。(H30)・ 上ノ国町が全道屈指の絹さやえんどうの産地であることを知っているかのアンケートを実施した。(H30)・ 絹さやえんどうの試食と販売、レシピ集の配布を行った。(H30、R1)・ 函館市の調理製菓専門学校のイベントで、レシピ集に掲載している料理を披露してもらった。(R1)

	<ul style="list-style-type: none"> 河北小学校の児童を対象に収穫体験を行った。(R3) 河北小学校の児童を対象に食育授業を行った。(R2、R3) 滝沢小学校の児童及びその親を対象に親子クッキング教室を開催した。(R3) レシピ集を改訂した。(R3)
<p>2 「絹さやえんどう料理、加工品」の開発、定着</p> <p>「絹さやえんどう」料理の開発、定番メニュー化、地元料理人との料理、加工品に関する検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地元料理店の協力を得て、コロケ、進丈揚げなどの絹さやえんどう料理、和菓子、洋菓子を開発した。(H30) 生産者、町民、町長等が参加し、料理検討会を開催した。(H30) 広報誌やホームページで紹介することを目的に、地元料理店と連携し、レシピを作成した。(R1) 上ノ国高校の生徒と連携し、料理開発を行った。(R1) 上ノ国高校の生徒が開発した料理の試食会を開催した。(R1) 道の駅「もんじゅ」にて、絹さや大福の発売を開始した。(R1) 絹さやえんどうの粉末化及び粉末を利用した加工品に関する検討を行った。(R2、R3)
3 活動体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 農業者、関係機関及び商工観光業者と活動内容の検討・報告会を行った。(H30、R1、R2、R3)
4 「絹さやえんどうの」町内流通	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅「もんじゅ」にて、絹さやえんどうの試行販売を行った。(R2) 農業者、需要者等と町内流通についての検討を行った。(R3)

2 上ノ国地区の活動の評価について

当該地区の活動を、(1) 活動の状況、(2) 活動への支援体制、(3) ふる水事業の目的(趣旨)達成の可能性という3つの視点に基づき評価する。

(1) 活動の状況

本地区の主な活動内容は、上ノ国町が絹さやえんどうの全道屈指の生産地であることの町民への理解の促進と需要の喚起、絹さやえんどう料理の地元への定着を通じ、地域活性化を図ることであった。

町民の「絹さやえんどう」に対する関心を高める取組みについては、町民を対象とした親子料理教室や上ノ国町産業まつりでの試食販売、レシピ集の配布を通じ、絹さやえんどうが地域の特産品であり、主菜、副菜、お菓子づくりにも幅広く使える食材であることの地域住民への理解を促す活動であったといえる。また、地元小学校を対象にした収穫体験や食育授業を実施するなど活動内容に発展がみられ、TVニュースに放映されたことで住民の関心も高まった。

「絹さやえんどう料理、加工品」の開発、定着に関する取組みについては、上ノ国高校フードデザイン授業で絹さやえんどう料理を開発。高校生の豊かな想像力で斬新な料理が生み出された。老人会の会長を招いた試食会も行われ、料理を通じた交流の場ともなった。また、地元の菓子店が開発した「絹さや大福」は道の駅で販売され、好調な売れ行きであった。絹さやえんどうの粉末化では、フリーズドライと温風乾燥の二つの方法で実施。加工品には発色がよいフリーズドライ製法の粉末の利用が望まれるが、多額の製作費がかかり、一定量の確保が求められることから、粉末を利用した加工品の開発は難航している。

活動体制の強化については、農業者、関係機関及び商工観光業者と活動内容の検討や報告会を行い、イベント参加者の反応などを共有し、活動に対するモチベーションにつなげた。

「絹さやえんどう」の町内流通については、道の駅で試行販売を実施。店頭に出せば売れるものの、町内に出す分ははね品が中心となるため、生産者としては商品としてお金を取りづらいとの意見が多く、流通体制の確立は難しいため、町内の飲食店等での料理の提供という形で流通を目指すこととした。

(2) 活動への支援体制

上ノ国町は、産業祭り等イベントの企画支援、食育活動に関する学校との連絡調整等の役割を担い、農協は生産者に対する活動成果の周知、産地PR等により活動を支援してきた。

(3) ふる水事業の目的（趣旨）の達成の可能性

全道屈指の生産を誇る絹さやえんどうの町民への理解の促進や絹さやえんどう料理の定着を図るため、農業者、地元料理店、学校関係者、関係機関が連携して活動を行ってきたことは、一つの農産物を中心とした相互交流が生まれ、地域の連帯感を醸成し、地域活性化に寄与する取組みとして評価できる。また、地域の将来を担う高校生や小学生に対する食育授業等は、絹さやえんどうを通じて地域への愛着を深めることが期待できる。

また、これまで開発した料理はレシピ集にまとめており、今後も上ノ国町、檜山農業改良普及センターのホームページを通じて情報発信を行い、絹さやえんどう料理が町内外に広がっていくことが期待できる。

本事業終了後も、生産組合、小学校及び関係機関が定期的な会合を持ち、食育授業を継続することとしている。今後も本事業で培った地域のつながりを深めつつ、「絹さやえんどう」を通じた地域の活性化を期待するものである。

オンラインファームツアー体験研修 アンケート集計

Q1 所属

	回答数	参加数	回答率
ふる水指導員	14	20	70.00%
振興局職員	23	31	74.19%
合計	37	51	72.55%

Q2 オンラインファームツアー(酪農)の体験はいかがでしたか？

	回答数			割合
	指導員	振興局職員	合計	
大変よかった	4	7	11	28.57%
よかった	8	9	17	57.14%
普通	2	7	9	14.29%
あまりよくなかった	0	0	0	0.00%
よくなかった	0	0	0	0.00%
合計	14	23	37	100.00%

Q3 オンラインファームツアー取組についての講義はいかがでしたか？

	回答数			割合
	指導員	振興局職員	合計	
大変よかった	5	9	14	37.84%
よかった	7	8	15	40.54%
普通	1	6	7	18.92%
あまりよくなかった	1	0	1	2.70%
よくなかった	0	0	0	0.00%
合計	14	23	37	100.00%

Q4 今回のオンラインファームツアー体験研修の感想を自由に御記入ください。

【指導員】

- ・体験研修内容としては、酪農に接した事のない人達用としては良いと思います(オンラインで興味を持ってもらい次回は本人が現地で五感体験)。電波状況等により画像や音声途切れた際のガイド役のフォローが大事だと思いました(今回は良かったです)。リピーターを作るためにも、いろいろな研修内容(メニュー)を作るのが大変そう。
- ・オンラインならではの魅力の伝え方や、ZOOMを使ったツアー進行の工夫などが伝わり、大変勉強になりました。
- ・自宅から、オンラインで農場に行った臨場感を味わえました。画像もとてもきれいで牛さんの可愛さが印象的でした。音声も、ときどき途切れましたがほぼ聞き取れました。ありがとうございました。
- ・直接映像で現地の様子が見れていい。どのように体験者に伝えているのかもよくわかる。岡野さんの話し方もとても聞きやすく要領を得て無駄がなくてよかった。コロナ禍にあって色々研究されて行っていていいと思いました。空気や牛舎などの臭いや香りが届けられるのもっといいのかもしれませんが、これは仕方ないですね。
- ・1時間の体験ツアー、ホストと現地のやり取りでzoomで参加している側が孤独感もなく楽しめました。帯広だけでなく全道展開できたらもっと楽しくなりそうです。
- ・農業体験をオンラインで行う事で農業に興味をもってくれる人が増えてくれてそこからコロナが終わったら沢山の人が現地で体験してもらいたいです。十勝だけでなく全道の農業を紹介して頂きたいと思いました。
- ・酪農家の様子はよくわかりました。やはりオンラインは臨場感が無いので、ちょっと淋しいでした。
- ・(オンラインツアーの体験は)初めての事で、こんなことができるんだと、大変良かったです。
- ・今回のオンラインファームツアーを体験して、コロナウイルス対策の中で、「在宅勤務から、都会や会社に出勤しなくても」仕事が出来ると現在の会社システムを見直すきっかけになり、今後地方に居ても生活出来る事に気づいた人が多く居ると思われそうです。
今後のオンラインシステムが、更なる進化を遂げる事は必修。現在田舎に住む私たちは、この動きを俊敏に捉え、受入体制を整えて、それぞれ特色ある受入体制を全道各地で連携の元、都市部に住み目覚めて居る人々に情報発信をすべきと感じた。
- ・いただきますカンパニーの取り組みは大変参考になりました。今後参考にしていきたいです。
- ・一度、町の産業創出課の関係でオンラインを体験したことはありましたが、短い時間で殆ど理解できない状況でした。この度のオンライン研修は時間も充分取って頂いたこともあり、各地域で活動している方々の内容も解り、良かったと思いました。

【振興局職員】

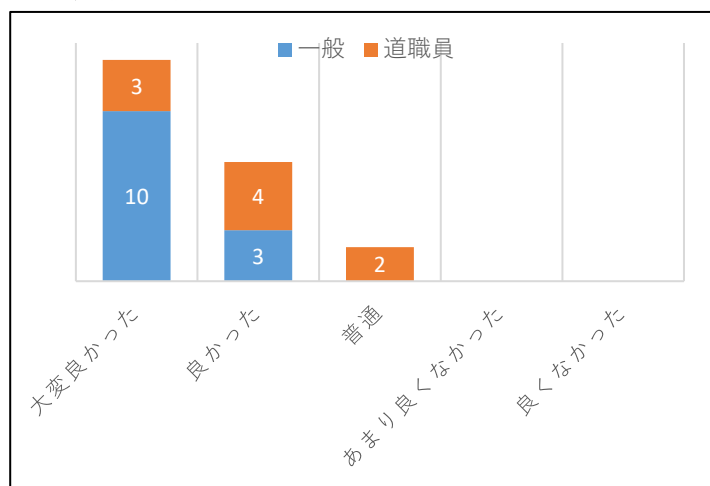
- ・これまでのファームツアーの経験があって、オンラインが組み立てられていると思いました。オンラインの活用を先駆的にすすめられていることに敬意を表したいと思います。体験ができ、お話も聞けて有意義な研修会でした。
- ・今まで酪農に触れたことが無かったので、興味深い内容でした。
- ・新型コロナウイルス感染対策のため実際に牧場等に行くことが制限されているので色々な場所で講習を受けられるのはよいと思う。
- ・オンラインでの研修が貴重な体験となった。
- ・たいへん勉強になった。内容も面白く、ニーズもありそうなので、地域の宣伝や活力・稼ぐ力に繋がるととてもすばらしい取組だと感じた。
- ・現地研修では、体験出来ないこともオンライン（zoom）でなければ、体験出来ないことがあるということがわかりオンラインならではの良さがわかり 勉強になった。
- ・今後もオンラインでこのような体験研修を実施していただきたい。
- ・ファーム、ホストのどちらも通信環境が悪かったり、雑音が強く入り、聞こえづらいところがあった。そういう場合もありとして営業しているとのことだったが、これだけ音が悪いと聞く側が努力しないと楽しむのは難しいので、機器などの工夫は必要だと感じた。
- ・初めての、ツアー体験であったのですが、もうひとひねりが欲しかったです。
- ・企業が企画しているだけあって、すばらしいツアーだったと思います。
- ・勉強になりました。
- ・普段行っている体験研修の紹介ではありましたが、農業関係者向けの内容であればより良かったのかなと感じます。
- ・全道的にもあまり例のない取組をされている会社の印象で、今後の組み合わせ次第で、活動の幅が広がるジャンルだと感じました。
- ・今回のオンラインファームツアーに物足りなさを感じました。学習目的や視察目的であれば有効であると感じましたが、体験を目的とするならやはりオフラインになるのではないのでしょうか。今後は、オフラインのサブ的な扱いとして活用されるのではないかと感じました。
- ・交通費や時間がかからず、農場に行った気分が味わえるので良かったです。その場の空気やにおいなど画面では伝わらない点をお話することでより臨場感のある研修になると感じました。
- ・オンラインがオフラインの代替えではない、との考えが良かった。国内外を繋げて、どんな風に行っていくのか楽しみ。
- ・小中学校向けの農場体験にも活用されているとのことですが、担い手の対策の担当として興味深く拝聴しました。個別の学校のみではなく、教育委員会単位または全道の取組に広がれば大変ありがたいと思いました。
- ・オンラインでのツアー体験研修は初めて体験したのですが、司会進行と現地が分かれて行っていることについて、とても参考となりました。大人数が入れない場所や天気が悪くても開催できることも知ることができました。
- ・オンラインファームツアーは初めての体験でしたが、利用者（お客さん）目線で体感することができ、大変有意義でした。「現場に全く触れたことがない」、「牛舎に入るのも初めて」といった方を対象に、酪農に興味を持っていただくには十分な内容と感じました。
- ・いただきますカンパニーの皆様ありがとうございました。
- ・素晴らしい取組ですね。システムについても経験により研鑽され工夫とアイデアを活かして作り上げていることが素晴らしい。何らかの参考にさせて頂きます。
あとは、私を含めた行政側の取組により、web中継などが電波状況により不具合が起こることが解消できるのではないかと。オンラインファームツアーだけで事業化によりwifiターミナルや光ファイバーケーブルの設置等は難しいと思うが、農業生産環境や農村防災向上におけるICT施設として整備し副次的に農村生活環境の向上、農水省で進める農泊の推進等の中にオンラインファームツアー等の取組で活用出来るのでは？

令和3年度 地域づくり研修会アンケート集計

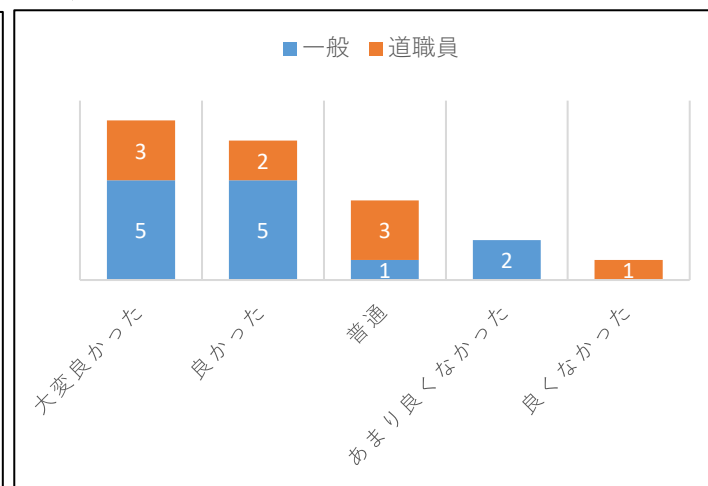
Q1, Q2、年齢・性別

年齢	性別		合計
	男性	女性	
20代以下	1	1	2
30代	0	0	0
40代	6	0	6
50代	3	2	5
60代	4	3	7
70代以上	1	1	2
合計	15	7	22

Q3、第1部講演はいかがでしたか？



Q4、第2部講演はいかがでしたか？



Q5、今回の講演に対する感想を自由にご記入ください。

- ・災害避難所や避難の仕方のお話を初めて聞いて良かった。北海道の気象について、地球温暖化・気温・雨・雪・流氷など暮らしへの影響のお話を聞いて良かったです。
- ・2講演ともわかりやすく、とても良かった。
- ・ZOOMでの参加でしたが、この一年コロナ禍で皆さんと直接会うことが出来ず、地域で活躍されている方とコミュニケーションが取れず残念です。今回の研修会では、特に災害時の対応を地域ごとに考えないとならないことを改めて感じました。今後、地球温暖化による集中豪雨に対応した取組も考えなければならないと感じました。
- ・防災には訓練、練習は必須。トイレの重要性。ノロウイルスにならないように手洗いが出来るようにすること。気象は普通にこれから常識を越えてくる。
- ・根本氏の講演はとっても良かったです。機会があれば地域の人たちにも聞かせてあげたいと思います。自分では何回もこのような学習会に出席していましたが、本日もまた新たに学ぶことができました。トイレの大切さを実感。
- ・昨今、オンラインになっているので主催者のあいさつ時、当日のテーマを話して頂けると聞く方としての心構えが出来ると思います（今日の研修会は何を意図としている？）。第1部の講演については、行政の方々と一緒に聞いた方が良かったか？！と思います。ふる水との関わりがなかなか感じられないのが残念！第2部の講演は、テーマをもっとしぼって（例えば木古内の大雨天気から起きる災害に関する天気予報の見方や、その時見る側の注意点、それに対する対策等の話を聞きたかった。気候の話は札幌・岩見沢の話が多く、もっと全道的な話をして欲しかったです！！
- ・防災で考えなくてはならないことがあんなにあったとは知らなかった。また今後の気象の変動で農業生産のあり方もすごく変わることを認識できた。
- ・災害に対する危機管理の面からも大変参考になる講演でしたが、ふる水事業との関連性については疑問が生じてしまいました。

・特に冬の災害時では、トイレ対策が大変なのだと改めて感じました。暖房時の一酸化炭素中毒にも注意が必要なですね。何より、弱者への配慮も忘れてはならないことなど学びました。とても分かりやすく、聞きやすい講演でした。温暖化で気象災害も増えてきているので、備えることの大切さも今一度感じました。防災と地域づくりのお話は参考になりました。ありがとうございました。

・これまで、何となくは思っていた事が、本当はもっとちゃんと考えなければならぬと再認識出来ました。

・災害による避難方法から、対策、避難所の設置方法までとても参考になりました。地球温暖化により作物、海産物の生育条件が変化することでの影響などが具体例により、とてもわかりやすく理解できた。

・実際の訓練の様子や気象情報をパワーポイントを使用してわかりやすかった。

・第1部講演は、良くも悪くも無難な講演だった。新しい気づきあまり感じられなかったのが残念だった。第2部講演は、テレビで気象予報を視聴する時間は5分程度だが、このテーマで1時間以上講演するのはそもそも冗長だと思う。

・行政が参考になる話が多かったため、ふる水指導員の方の活動に直結する内容の話も聞ければ良かったと思いました。

・今回の講演は、振興局職員向けにも有効と思われた。検討願いたい。昨年度より法河川では流域治水Pの取組が始まっているが、地域住民による防災活動を進めることが重要な課題となっており、地域住民への周知の手法をどのようにするか課題である（書類上でなく現実の行動として）。気象変動の問題は、身近な問題であり、有意義な講演でした。

【6】その他、お気づきの点や今後、地域づくり研修会で取り上げてほしいテーマ・内容などがありましたら、ご記入ください。

・講師の方、大変お疲れ様でした。大変、参考になりました。また、スタッフのみなさん、お疲れ様でした。

・Web開催のため出席者がわからなかったので出席者名簿あれば良かったと思います。

・この様な講演をするなら、札幌中心よりは、ふる水指導員が多い地域に視点を置いた講演が聞きたいと思います。今日の講演は両方とも総論に重点があった様に思います。「～だから私たち指導員はどういうスタンスが必要」という話が聞きたいです。根本先生の話に出て来た兵庫県の共助の様式を作った人の具体的な話を聞きたいです！

・コロナが早く終息して通常どおりの研修会が出来るようになって欲しいです。

・地域農業で担い手対策の優良な活動事例の様な内容を講演出来るような団体・個人がよいですが、適任者はいないでしょうか？（大法人化・6次化・高収益作物生産など）

・よほど話上手な講師でもなければ、一人の持ち時間が1時間以上はあるのは、長すぎると思う。一人30分くらいにコンパクトにした方がよい。事前の資料を最小限とした点は良かったと思う。また、画像や音声に乱れもなくスムーズな進行が良かった。コロナ禍で対面での接触が困難な中、各地域づくりの取組がどのように変わってきているのか、その変化と対応策を聞いてみたい。